



久保田由夫 ほっと通信



NO. 81
2018. 9. 16
【部内資料】

発行 くぼたよしお事務所 ☎42-6361 fax 42-5630

<久保田由夫のブログ・フェイスブック・ホームページもご覧ください>

日本共産党



<季節の写真>

西内地区平井自治会のひまわり・コスモス祭りが行われました。地域のみなさんが丹精込めて育てている花畑は見事なものです。

「ブラックアウト」から考える～小規模分散型の地域電源を～

◆北海道胆振東部地震いぶりとうぶが起きた。犠牲になられた方に対してご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さんにお見舞いを申し上げます。◆北海道の東部にある厚岸町あつけしちよう（釧路市の近く）に親しい友人がいるので、連絡を取ってみました。地震直後から停電になり、復旧するのに約30時間かかったとのこと。電気が来てもすぐにはテレビが受信できず、見えるまでさらに10時間ぐらいかかったとのことでした。◆テレビを見て、はじめて大きな土砂崩れがあったことが分かったとのことでした。◆今回の北海道の地震は、「ブラックアウト」という北海道全域で電気が止まる事態が起きました。日本では初のことです。◆対策として他の電力会社からの融通対策、再生可能エネルギーの普及が必要です。大規模発電所からの電力供給から小規模分散型の地域電源の必要性が高まっています。（由夫）

9月議会一般質問は、「大規模な太陽光発電施設の問題点」「決算から見える上田市の財政」

住民合意がなければ、再生可能エネルギーの普及はできない！

平成24年に再生可能エネルギー特別措置法ができて、再生可能エネルギーが大きく普及しました。一方で、この法律には環境に配慮した規制がないため、全国各地で立地をめぐって住民とのトラブルも起きています。

上田市でも上田市生田地域の飯沼自治会や長瀬中央自治会、さらに東山城下地域において防災のリスクが高まることから反対運動が継続しています。

さる9月3日には、関係する三団体が土屋陽一市長に要望書を出したところです。（下の写真）このことを踏まえて、下記の事項について質問します。

- ア 再生可能エネルギー特別措置法
- イ 大規模な太陽光発電事業への市の対応
- ウ 市内における大規模な太陽光発電事業
- エ 国によるあらたな規制の動き
- オ 市内三団体による市長要望に対する市長の見解



平成29年度決算から上田市の財政を考える！

例年、9月議会は決算議会です。決算は、上田市の財政の健康診断とも言えます。今回は、合併後の10年間の比較および類似団体（人口や産業構造がほぼ同じ市町村）の比較をして上田市の財政の特徴と今後の方向はどうあるべきかについて下記の項目について、質問します。

- ア 経年比較と類似市町村との比較
- イ 監査委員の意見
- ウ 平成29年度決算を踏まえて市長の見解
- エ 市議会決算特別委員会の附帯意見
- オ 合併算定替への対応

今年の日帰りバス旅行

- 日時 10月17日(水)
- 旅行先 妙高高原いもり池
ビジターセンターや
いもり池周辺の散策
リニューアルオープンした上越水族館へ



○会費 7400円

詳しくは、チラシをご覧ください。